



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	CoSTEPの「サイエンス・カフェ札幌」がグッドデザイン賞を受賞
Author(s)	村井, 貴
Citation	北海道大学東京同窓会会報 フロンティア, 第48号, 38-39
Issue Date	2016-02-10
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/64557
Type	article
File Information	rontier48_GOOD-DESIGN.pdf



COSTEPの「サイエンス・カフェ札幌」が グッドデザイン賞を受賞



村井 貴

北海道大学高等教育推進機構
科学技術コミュニケーション教育研究部門
(CoSTEP)

2015年9月29日、日本デザイン振興会が主催するグッドデザイン賞の「地域・コミュニティづくり／社会貢献活動」の部門において、CoSTEPの応募作品「触媒としてのサイエンス・カフェ札幌」北海道大学 高等教育推進機構 科学技術コミュニケーション教育研究部門 (CoSTEP) の10年間の取り組み」が受賞しました。

グッドデザイン賞は1957年に通商産業省(現経済産業省)によって創設され、約60年近く継続



サイエンス・カフェ札幌にて市民が対話する様子

されてきた賞で、作品は有形無形を問わず、プロダクトデザインから社会貢献活動といった取り組みまで幅広く対象としています。

日本でサイエンスカフェという文化が広がり始めた2005年から現在まで、CoSTEPは紀伊國屋書店札幌本店1階のインナーガーデンで「サイエンス・カフェ札幌」を、89回にわたり開催してきました。

CoSTEPではサイエンスカフェをはじめとする科学技術コミュニケーション活動を広く周知し、認知度を高める目的で、昨年4月に2015年度グッドデザイン賞に応募することになりました。

「サイエンス・カフェ札幌」の特色

応募作品名に「触媒としての」と添えてあるのは、サイエン



質問カードを使って、研究者と市民が対話を行う様子

ス・カフェ札幌が研究者と市民をつなぐハブとなった結果、単なるサイエンスカフェに留まらず、周囲に好影響をもたらした、新たなプロジェクトや出会いを生み出していったためです。具体的にはサイエンス・カフェ札幌を通じて知り合った仲間が集って新たなコンセプトのサイエンスカフェを企画したケースや、参加者として来場した学生がゲストの研究者の話を聞いて、その後その研究室に入って活躍したケースなどが挙げられます。

また、教育的な側面では受講生が主体となって運営されている点がとても重要です。北海道大学の大学院生を中心に構成されている受講生が研究者と市民をつなぐ役

割を経験することで、将来その受講生が研究者になった時、自分の研究テーマを基に熱心なアウトリーチ活動に取り組んでもらいたいと私たちは考えています。

ひとつの事柄がそれだけで完結せず、有機的な結びつきから連鎖的に新たなシーンを生み出していくサイエンス・カフェ札幌の特色とはまさにこの触媒の機能であると考えます。

受賞の意義

サイエンス・カフェ札幌が積み上げてきた成果に対し、総合的にデザインを評価・推奨する日本で唯一の制度であるグッドデザイン賞から外部評価を得られたことが最も重要であると考えています。

今後この路線を継続し、創意工夫を加えながら、サイエンス・カフェ札幌は進化していくことになります。

北海道大学の組織として初の受賞である点も重要です。CoSTEPは科学技術コミュニケーションの教育研究活動を進めています。同時に教育を通じてアウトリーチ活動を担っている組織です。グッドデザイン賞の受賞によって、北海道大学の社会貢献活動に対する姿勢を全国に示すことができたのは意義があったと考えます。



審査委員の南雲勝志先生と記念撮影



会場の展示パネルと
東京同窓会の川添さん



山口総長と新田理事と
CoSTEPスタッフで受賞記念撮影



ゲストの話題提供の様子

当日の会場は大入りで、来場者は熱心に耳を傾け、時折用意されるインタラクティブを通して、食肉に対する興味関心を深めていました。その様子は受賞報告の際に山口総長の言葉にあった「新たな対話の場づくり」そのものであり、サイエンス・カフェ札幌の歴史にまた新たなページをもたらしました。

◎ 審査委員の評価

グッドデザイン賞の審査は部門ごとの審査委員が行うことになっています。CoSTEPが受賞した「地域・コミュニティづくり／社会貢献活動」の審査委員による評価コメントをご紹介します。

「各地でサイエンスカフェは行われているが、学生が主体となることで実践的な学びの場となっていること、地域に根ざしたテーマを積極的に取りあげること、大学と地域を結ぶ試みになっていること、さらにはウェブサイトを通じた情報コミュニケーション、受講生による自発的なサイエンスカフェの実施など、質を向上させながら10年以上継続している点が高く評価となった。各回のフライヤーやポスターのデザインにも、タイトル付けからグラフィックに至るまで参加者目線の工夫が随所に見られ、ありきたりなサイエンスカ

フェから一線を越えていこうというデザイナーの想いが溢れている」

特に教育面での成果に対し、評価を受けている点が印象的でした。また、CoSTEPの特色のひとつであるデザイン性の高さにも言及されており、細かく審査の目が行き届いていたのだということ強く感じました。

◎ 受賞展を教育活動の場に

グッドデザイン賞では受賞作品を一堂に会した受賞展「GOOD DESIGN EXHIBITION」を東京ミッドタウンで開催しています。昨年は10月30日～11月4日の日程で行われました。会期中は多数の修学生や関係者にご来場いただき、CoSTEPの展示スペースは終始賑やかで、これまでサイエンス・カフェ札幌が紡いできた人と人の強いつながりを再確認する場となりました。

また、CoSTEPの「リサーチ&ライティング実習」にて、受賞展を科学技術コミュニケーションの視点で取材する機会を設けることで、受賞展そのものをCoSTEP受講生の教育活動の場として活用することもできました。具体的には、「グッドデザイン賞と科学技術コミュニケーション」というテーマのもと、科学技術とデザインを融合させた受賞作品が製品化された背景やコンセプトを調査し、デザイン分野における科学技術コミュニケーションの意義や、将来的にもたらされる社会的な影響および新たに生まれるコミュニケーションの可能性を考察してもらいました。

◎ 総長への受賞報告

12月4日、山口佳三総長に受賞報告を行いました。新田孝彦理事（副学長／高等教育推進機構長）より10年間の活動実績について報

告すると、山口総長より「明日からも、大学と社会を結ぶ新たな対話の場づくりに精進してほしい」とありがたい激励の言葉を頂戴しました。

◎ 新たな対話の場づくりへ

山口総長への受賞報告から2日後の12月6日に、第85回サイエンス・カフェ札幌「ラベルのない肉／細胞から見る食肉」（ゲスト 西邑隆徳さん／農学研究大学院教授）が開催され、細胞や組織の発達メカニズムの話題を中心に、ゲストと市民が一緒になって食肉について考えました。運営の主体はCoSTEPの「対話の場の創造実習」の受講生です。企画の段階から、西邑先生と何度も打ち合わせを行い、テーマ設定、進行、演出などの内容を練り、この日を迎えました。

当日の会場は大入りで、来場者は熱心に耳を傾け、時折用意されるインタラクティブを通して、食肉に対する興味関心を深めていました。その様子は受賞報告の際に山口総長の言葉にあった「新たな対話の場づくり」そのものであり、サイエンス・カフェ札幌の歴史にまた新たなページをもたらしました。